

## 10月30日朝会の校長の話(概要)

先週、校長先生が学校からの帰り道で、谷中小の子とすれちがいました。校長先生が「さようなら」と挨拶をしたら、その男の子が「おつかれさまでした！」と言ってくれました。校長先生はその子が「さようなら」と返してくるかと思ったので驚きました。25年ぐらい先生をしています、子供に「おつかれさまでした」と言われたことはなかったからです。校長先生はその言葉をもらって電車に乗りながらしばらく考えました。「おつかれさまでした」は、相手のしてくれた行いに対して、その努力を労う時に使う言葉です。その子の本心は分かりませんが、校長先生はその子が校長先生のことを大切に考えてくれている気がして嬉しくなりました。そして、たった一つの言葉で、相手を元気付けたり、温かな気持ちにさせたりすること、また反対に相手を傷付けたり、嫌な気持ちにさせたりすることに、言葉の重みというものを考えさせられました。みなさんはどうですか。自分の話している言葉の意味や言葉の力に気付いていますか？ 6月に続いて11月はふれあい月間といって、いじめを無くしたり、お互いに気持ちよく生活できるように考えたり、行動したりする月です。6月は標語をつくってもらいましたが、11月は挨拶もですが、一人一人が自分の発する言葉について、よく考えたり、工夫したりして生活して欲しいと思います。